

1.1.1版インストーラ・パッケージ作成に向けてバージョン番号等を更新する

2015/11/04 16:58 - n.kawauchi

ステータス:	終了	開始日:	2015/11/04
優先度:	通常	期日:	
担当者:	n.kawauchi	進捗率:	100%
カテゴリ:		予定工数:	0.00時間
対象バージョン:	RELENG_1_1		
説明 下記の修正を行う 1. InterfaceDataTypes.idlの修正 : Waypoint2D型のmaxSpeedメンバのデータ型をVelocity2Dに修正 2. Windows用インストーラmsiファイルやjar.zip等のパッケージファイル名に入るバージョンを1.1.1とする 3. 1.1.0版のWindows用インストーラのUpgradeCodeのGUIDが、32bitと64bit版で同じ値になっていた不具合を解消させる 4. JDK8に対応する : インストール時のJDKバージョンチェックで、7と8はOKとする			

関係しているリビジョン

リビジョン 748 - 2015/10/29 18:56 - kawauchi

[bug,incompat->RELENG_1_1] Fixed incorrect member types and name.

リビジョン 749 - 2015/11/04 16:29 - kawauchi

[compat,installer,->RELENG_1_1] Version number has been updated to 1.1.1. Sample component startup script has been modified. refs #3353

リビジョン 750 - 2015/11/05 13:21 - kawauchi

[compat,installer,->RELENG_1_1] UpgradeCode has been corrected that were same in msi of 32bit / 64bit. refs #3353

リビジョン 751 - 2015/11/05 18:34 - kawauchi

[compat,installer,->RELENG_1_1] Supported JDK8. refs #3353

リビジョン 752 - 2015/11/09 18:41 - kawauchi

[compat,installer,->RELENG_1_1] SinCosOut sample has been removed from installer of Windows. refs #3353

履歴

#1 - 2015/11/10 16:42 - n.kawauchi

- 進捗率 を 0 から 80 に変更

1. InterfaceDataTypes.idlの修正 : Waypoint2D型のmaxSpeedメンバのデータ型をVelocity2Dに修正

- [r748](#) に対応

2. Windows用インストーラmsiファイルやjar.zip等のパッケージファイル名に入るバージョンを1.1.1とする

- [r749](#) に対応
- 合わせてサンプルコンポーネントを起動するbatスクリプトを修正した
 - バージョン番号が入ったファイル名 (OpenRTM-aist-1.1.1.jar) の直書き指定だったので、バージョン番号が変わっても対応できるように
 - dirコマンドで該当ファイルを指定するように修正した
 - ただしこの方法でも問題が残っている。この処理の共通スクリプト (set_classpath) のショートカットは不要なのに作成されている。(チケット発行予定)
 - 1.1.1の次のリリースではマージモジュール化するため全面的に処理を書き換える予定なので、その際に対応する

3.

1.1.0版のWindows用インストーラのUpgradeCodeのGUIDが、32bitと64bit版で同じ値になっていた不具合を解消させる

- [r750](#) に対応
- UpgradeCodeはOpenRTM-aist-Java.wxs.yaml.in で定義している
- 今まで定義していたGUIDはx86版で継続使用し、x86_64用を新たに取得した

OpenRTM-aist-Python.wxs.yaml.in

Product:

```
:
  UpgradeCode_x86: A8C8006F-E9D8-4528-AF4F-B8AE2D25AB47
  UpgradeCode_x86_64: FFA49C40-82CE-11E5-93B2-005056C00008
```

- この設定にて生成したmsiファイルをwxsファイルに展開して確認 . . . OK!

• OpenRTM-aist-Java_1.1.1-RELEASE_x86.wxs

```
<Product Id="{44F38CB0-835C-11E5-8E9A-000C297C8936}" Codepage="1252"
  Language="1033" Manufacturer="AIST"
  Name="OpenRTM-aist-1.1.1-RELEASE (32-bit OS) for Java"
  UpgradeCode="{A8C8006F-E9D8-4528-AF4F-B8AE2D25AB47}" Version="1.1.1">
```

• OpenRTM-aist-Java_1.1.1-RELEASE_x86_64.wxs

```
<Product Id="{88BF1A40-8361-11E5-ADED-000C297C8936}"
  Codepage="1252" Language="1033" Manufacturer="AIST"
  Name="OpenRTM-aist-1.1.1-RELEASE (64-bit OS) for Java"
  UpgradeCode="{FFA49C40-82CE-11E5-93B2-005056C00008}" Version="1.1.1">
```

4. JDK8に対応する：インストール時のJDKバージョンチェックで、7と8はOKとする

- [r751](#) に対応
- 動作はoracleJDKのjdk-7u75-windows-i586とjdk-8u60-windows-i586をそれぞれインストールしている環境で確認 . . . OK!
- JDK8環境でのサンプルコンポーネントの動作を確認する
 - Composite.bat . . . OK!
 - ConsoleIn -> PeriodicECSharedComposite -> ConsoleOut での確認
 - このサンプルの解説ページが無かったので作成した
<http://openrtm.org/openrtm/ja/content/composite>
 - ConfigSample.bat . . . OK!
 - ConsoleIn.bat / ConsoleOut.bat . . . OK!
 - GUIIn.bat . . . OK!
 - GUIIn -> SequenceInComponent での確認
 - SeqIn.bat / SeqOut.bat . . . OK!
 - MyServiceConsumer.bat / MyServiceProvider.bat . . . OK!
 - SinCosOut.batはサンプルから外した
 - [r752](#) に対応

#2 - 2016/01/04 09:33 - n.kawauchi

- 進捗率を 80 から 100 に変更

Python版のチケット作業 [#3350](#)

と同様に環境変数RTM_ROOTの設定を検討していたが、この作業は不要()となったのでこのチケット作業は完了とする。
理由は、次期リリースではC++, Python, Javaを1つのmsiでまとめる方向となったため

#3 - 2017/03/19 08:22 - n-ando

- ステータスを新規から終了に変更